

台風7号の接近に伴う被害防止対策について

気象災害対策H30-2
平成30年7月2日
農林総合研究センター

I 被害防止対策

詳しい台風情報、解説は最終ページ

現在、強い台風第7号は、久米島の北約160キロを1時間におよそ20キロの速さで北へ進んでいます。

今後、石川県には4日（水）午後から夜間にかけて最接近する進路予想となっています。

今後の台風情報に十分注意し、万全の対策を講じて下さい。

〈要旨〉

- 1 水稲では、台風通過前までに圃場へ入水し、高温による稲体の消耗、強風による不稔発生を軽減する。
- 2 大豆は、大雨に備えて、ほ場の排水路を点検・連結し、排水対策を講ずる。
- 3 野菜や花き等の園芸施設では、施設内に風が吹き込まないように、サイドのフィルムを張り、破損箇所は速やかに補修し、ビニールのバタつきを防ぐためにハウズバンドを締め直すなど点検・整備する。
- 4 収穫期に入っている園芸作物では、熟度を確認し、収穫可能なものは早急に収穫、出荷する。

〈詳細〉

II 農作物の被害防止対策

1 水稲

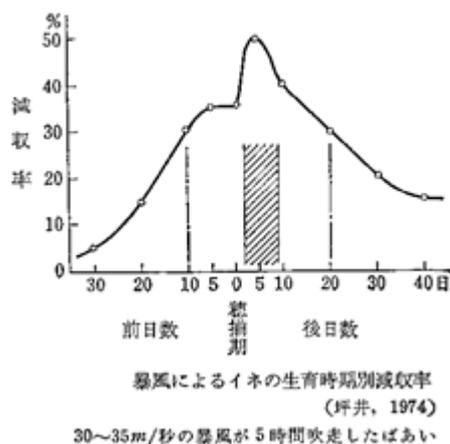
現在、早生は幼穂形成期～減数分裂期、コシヒカリは早いところで幼穂形成期となっており、風速8m/s以上の強風や高温条件下において不稔の被害を受ける危険な時期となっている。なお、晩植や直播のコシヒカリ、ひゃくまん穀まだ幼穂形成期に至っていない。

(1) 事前対策

- ① 茎葉の繁茂度が高く、水分の蒸散量が著しい時期であるので、台風通過前までにはほ場へあらかじめ入水しておく。

(2) 事後対策

- ① 台風通過後は、降雨の状況に応じ、入排水を行う。中干しが必要な圃場では中干しを継続する。



- ② 茎葉の損傷により根の老化が進むので台風通過後は毎日通水するなど間断通水の間隔を短くし、根の機能維持に努める。また、可能であれば夜間通水を行なうなどきめ細かな水管理を実施する。
- ③ 塩水が水田に侵入した場合は、速やかに塩水を排出し、淡水の散水や入水により除塩作業を行なう。



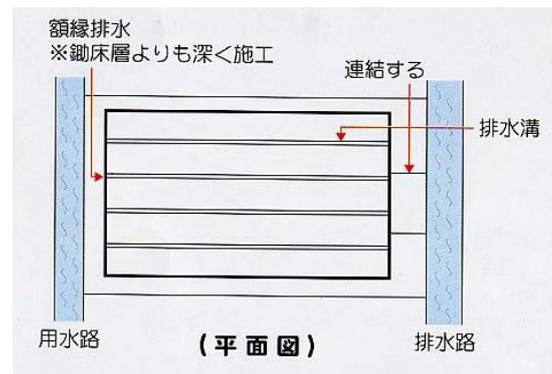
2 大豆

(1) 事前対策

- ① 降雨が予想される場合は、排水溝を点検・整備し、連結しておく。

(2) 事後対策

- ① 大雨となった場合は、台風通過後速やかにほ場を点検し、排水に努める。



3 野菜・花き

(1) 事前対策

① 施設の整備、補強

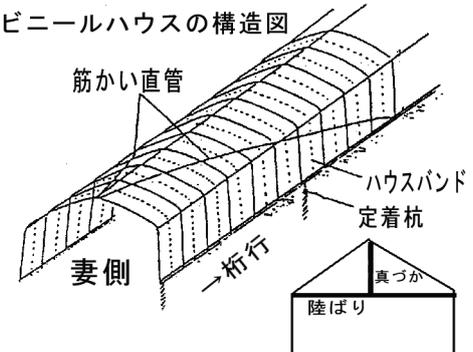
ア 하우스周囲の排水溝を整備し、施設内に浸水しないように備える。

イ 施設内に風雨が吹き込まないように、破損箇所は速やかに補修し、ビニールのバタつきを防ぐためにハウスバンドを締め直すなど点検・整備を早急を実施する。

ウ 暴風時のフィルムやパイプの浮き上がりを防ぐため、ハウス本体の直管と別に桁行直管にハウスバンドを張り、フィルムを固定する。この桁行直管は3m間隔に打込んだ定着杭（アンカー杭等）で地面に固定する。

エ 換気扇が設置されている場合は、暴風時に施設を密閉し、換気扇を稼働させて施設の内圧をマイナスにして、フィルムの浮き上がりを防止する。

ビニールハウスの構造図



②施設野菜・花き（トマト、きゅうり、軟弱野菜等）

ア 台風が日中に接近した場合は施設の密閉により過度の気温上昇が起こるので、風下側は5～10 cm程度の幅で巻き上げ換気する。密閉する場合は、台風通過後ただちに換気を行う。

イ 施設内が高温になると、葉や生長点が焼ける恐れがある。頭上から噴霧散水して作物体温やハウス内の温度を下げる。頭上散水設備のない施設では、萎れが著しい場合は動力噴霧器を利用し、噴霧散水する。

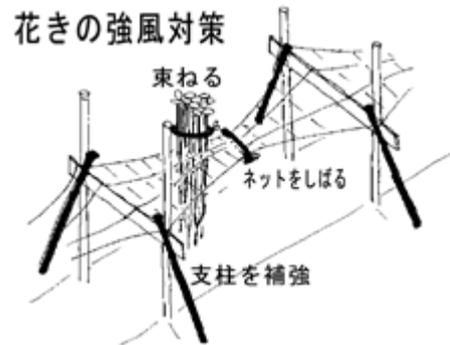
ウ ハウスの遮光を実施し、ハウス内気温の上昇を抑制する。

③ 露地地這栽培（すいか、かぼちゃ、かんしょ、ねぎなど）

- ア ほ場の排水路を点検し、事前に排水対策をしておく。
- イ 砂丘地等では飛砂防止のために強風の前から台風が通過するまでスプリンクラー散水を行う。
- ウ すいか、かぼちゃなどで収穫可能なものは早急に収穫する。また、果実の日焼け防止対策（白テープなど）を早急を実施する。
- エ ねぎはパイプ支柱を1.8m間隔に立て、2本のハウスバンドで挟み込むように連結結束し、横ゆれを防止し、葉の損傷や倒伏を抑制する。

④ 露地立体栽培（なす、小菊かぼちゃ、まるいも、花き等）

- ア ほ場の排水路を点検し、事前に排水対策をしておく。
- イ 筋かいや直管で棚を相互に連結し、また周囲杭等と棚を固定し、棚全体を固定・補強する。
- ウ なすなどの果菜類では、収穫可能な大きさのものは早急に収穫する。
- エ きくやけいとうなど露地栽培の花きは鋼管支柱等を3～5m毎に打ち込み、ネットを補強する。また、強風が予測される場合は、畦の中央に数m置きに支柱を立て、支柱を中心にネットを絞り込む。



(2) 事後対策

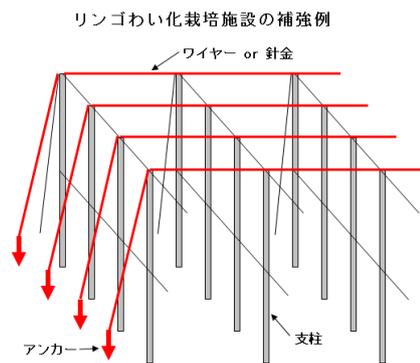
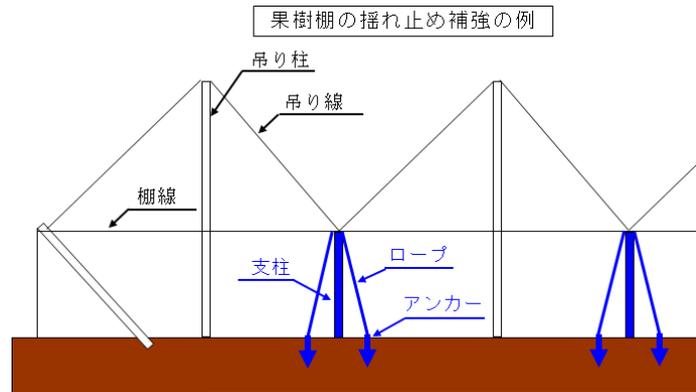
- ① 大雨によりほ場が冠水した場合は、3時間以内ではほとんど悪影響はないが、3時間を超えると高温によるむれや、根腐れによる被害が発生しやすくなるため、直ちに表面排水に努める。
- ② ハウス内がフェーン現象で異常高温となった場合は、トマトやメロン等では石灰欠乏症が発生しやすいので、石灰の葉面散布などを積極的に行う。
- ③ 成熟期のすいか、メロン（特に小さい果実）ではウルミ果の発生が懸念されるので、試し切りを必ず行い、品質を確認後に出荷する。
- ④ 砂丘畑等で強風や飛砂で茎葉が傷んだ場合は、通過後直ちに速効性肥料で追肥する。また、茎葉が風雨でもまれた場合は、病害が発生しやすいので、殺菌剤による予防と草勢回復のため微量要素入り液肥の葉面散布を行う。
- ⑤ 切り花では強風のため斜めに倒れた場合は、茎の曲がりや倒れを防止するため、台風通過後2～3時間以内にネットを起こし元に戻す。

4 果樹

(1) 事前対策

なしやりんごなど果実肥大期にある樹種では、成熟期に比べ落果の危険性は少ないが、強風による果実や枝葉の損傷が懸念される。また、ぶどうやいちじくなどの栽培施設の損傷にも注意が必要である。それぞれの樹種の生育ステージや園地の地形に合わせて、以下の対策を実施する。

- ① 収穫期に入っているぶどう、ももでは、熟度を確認し、収穫可能なものは早急に収穫、出荷する。
- ② 防風施設は支柱を点検し、ネットの破れ等は補修し架線にしっかり固定する。
- ③ 防鳥網は風で飛ばされないようしっかり固定する。また、ぶどうやいちじくなどのハウスでは、バンドを締め直してビニールのバタつきを防ぐ。
- ④ 棚栽培での果実の落果のほとんどが、風圧による棚の上下動が原因であるため、必要に応じて支柱・アンカー等で棚面を補強し、揺れを抑える。
- ⑤ なし、キウイフルーツ、いちじく等の新梢は折れやすいので、被害を軽減するため、新梢を棚面や支柱等に固定する。特に、いちじくでは、葉擦れが原因でサビ果が発生するので、新梢が揺れないようしっかりと固定する。
- ⑥ りんごのわい化栽培では、支柱の上部をワイヤー等で連結し補強する。
- ⑦ 高接ぎ更新などの接ぎ木部分は風に弱いため、支柱を添えて必ず補強する。また、以前に裂けた枝、裂ける危険のある個所についても補強が必要である。
- ⑧ 大雨を伴う場合は、排水溝を設置するなど園内の排水対策を行う。
- ⑨ 事後対策のための資材等を予め準備しておく（薬剤、補修資材等）。



(2) 事後対策

- ① 台風で打ち身やすり傷を負った果実は、軟化、腐敗や落果が懸念される。収穫可能な果実は直ちに収穫し、食用、加工用、飼料用、廃棄するものに分別し、処分する。また、落下果実は直ちに園外へ持ち出す。
- ② ビニールハウス、果樹棚、支柱等の施設の被害は早急に補修する。
- ③ 倒伏樹は速やかに起こし、支柱で固定する。太根の切断が著しい場合は、その程度に応じて地上部を切りつめる。
- ④ 枝裂けは状態に応じて傷害部を削り取り、塗布剤で処理する。
- ⑤ 落葉被害を受けた場合は、被害程度に応じて摘果を行い、果実品質維持と樹体の回復を図る。
- ⑥ 強風で葉や新梢が傷ついた場合、使用基準に基づき保護と防除を兼ねて速やかに殺菌剤を散布する。

5 畜産

(1) 事前対策

- ① 畜舎内に風が吹き込まないように、窓、戸等の破損箇所は速やかに補修する。
- ② 暴風時は風向きを考慮し畜舎の開口部を最小にして、換気扇を稼働させて換気を行う。
- ③ 停電によって搾乳作業やバルククーラーが止まることが予想されるので、緊急時の発電機の確保を検討しておく。

(2) 事後対策

- ① 畜舎の点検を行い被害箇所の修理を行う。
- ② 畜舎への浸水があった場合は、排水に努め、水が引いた後、速やかに畜舎、家畜、設備器具の水洗、乾燥、消毒を実施する。特に、搾乳機器は故障箇所の点検を行い、消毒等の衛生対策を徹底する。

6 飼料作物

(1) 事前対策

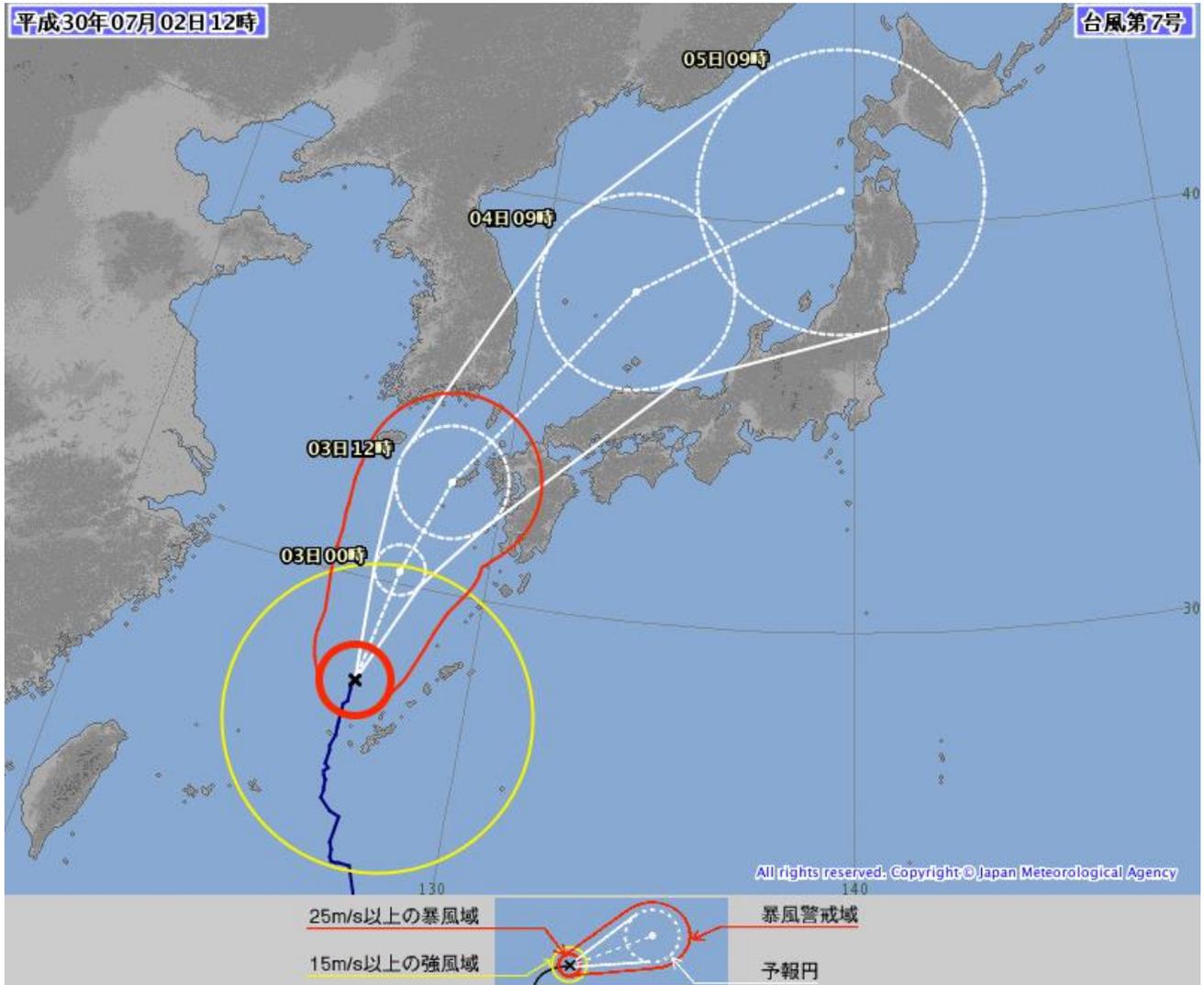
- ① 飼料畑ほ場に排水溝を設けて表面排水を徹底する。
- ② ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールは、網をかけるなど強風による破損を防止する。

(2) 事後対策

- ① ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールに破損箇所があれば、再度ラッピングするなり、テープを貼るなどサイロの気密性確保に努める。

Ⅲ 気象の概況

台風の進路予想



〈2日12時の実況〉	
大きさ	-
強さ	強い
存在地域	久米島の北約160km
中心位置	北緯 27度40分(27.7度) 東経 127度05分(127.1度)
進行方向、速さ	北 20km/h(11kt)
中心気圧	965hPa
中心付近の最大風速	35m/s(65kt)
最大瞬間風速	50m/s(95kt)
25m/s以上の暴風域	全域 90km(50NM)
15m/s以上の強風域	南東側 500km(270NM) 北西側 280km(150NM)

